

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.97 - 2017年1月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



総長よりサレジオ会員へ 宣教の呼びかけ

兄

弟の皆さん、

私はこの手紙を2016年12月8日、サレジオのオラトリオが始まって175年目の日に書いています。この日、バルトロメオ・ガレツリと「アヴェマリア」を唱えたとドン・ボスコ自身が語っています。私ははっきりした意向をもってこの手紙を書いています。今日という日は、宣教ad gentesへの呼びかけを世界中のすべての管区、宣教師としてサレジオの召命を生きるよう主に呼ばれていると感じるすべての会員に向けて発するのに良い日です。サレジオの宣教師ad gentes, ad externos, ad vitam（すべての人へ、自分の国を出て、生涯）となる招きに応えるようにと。私の呼びかけは、世界のすべての管区、サレジオ会員のいるところで響く声でなければなりません。惜しみない応答があるように。

この呼びかけを行う基本的な理由は三つあります：

世界における福音宣教の使命は私たちドン・ボスコのサレジオ会員に、境界を乗り越え、さらに開かれるよう求めています。教会から絶えず寄せられる、さまざまな場所、多様な人々の中での福音宣教の使命の実に多くの要請に応えるためです。

二つめに、会の中で、私たちが存在を維持できなくなっている場所があります。五大大陸の一部の国々では、奉仕できるサレジオ会員がいない一方、ほかのところでは使徒的な力にあふれ人数の多いところがあります。私は特に、次の現場で私たちが待つ若者たちのことを思います。プロジェクト・ヨーロッパにおいて、中東、イスラム教徒が多数を占める国々で、オセアニアの島々、南スーダン、モンゴル、シベリア、カンボジア、マレーシアで、またアメリカ大陸の移民の若者たちの中で……そのほか多くの場所で！

三つめの理由は、ドン・ボスコの宣教への情熱に密接に結びついています。しかるべき時にパタゴニアに入るという1875年の宣教への大いなる挑戦の後、ドン・ボスコの後継者の何人かが言っているように、あたかもドン・ボスコは宣教のプロジェクトだけにかけているかのようでした。アルベラ神父は書いています。「宣教地のことはドン・ボスコの心のいちばん中心にあり、ドン・ボスコはあたかも宣教地のためだけに生きているかのようでした……ドン・ボスコがあまりに情熱を込めて宣教事業について語るの、私たちは驚嘆し、靈魂へのその燃えるような愛に強く感銘を受け、わが身を正さずにはいられませんでした。」

**ドン・ボスコは、世界の辺縁へと
出かけて行く修道会を夢見、望みました！**



ドン・ボスコ自身、1880年に教皇レオ十三世にあてた手紙に明白に述べています。「海外宣教は、サレジオ会が常に愛し大切にしてきた取り組みです。」

この数年、44の管区を訪れる旅をした機会に、私はこの事実をふり返らなければならないとたびたび話しました：もしドン・ボスコがサレジオ会の司牧・教育活動の領域をイタリアの貧しい子どもたちに限っていたなら-イタリアでサレジオ会員を求める需要が大きかったことを思えば、それは正当な優先事項だったでしょう-そして絶え間なくドン・ボスコを駆り立てた大きな情熱と大いなる宣教のビジョンがなかったなら、今日、サレジオ会は一つの国の中だけで働く小さな会であったでしょう。サレジオ会を教会、世界において国境を越えて広がる会にしたのは、私たちの父を宣教に駆り立てた熱意なのです。

兄弟の皆さん、以上の理由から、私は今、皆さんに向けて強く訴え、惜しみなく応えるよう皆さんを招きます。第一に、主からのこの明白な呼びかけを聴く会員に寛大さをお願いします。そして、諸管区、院長、特に管区長の皆さんの寛大さをお願いします。若い会員、そのほかの会員の視野や関心を自分たちの管区だけにとどめさせ、宣教に駆り立てられる心の動きを抑えてしまうことが決してないように。私たちは、自分たちの起源、カリスマにおけるアイデンティティーを忘れることはできないのです。

宣教師の召命の可能性がある場合、どのように段階を踏むか、皆さんはよくご存じです。総長がその望みを表明する会員から電話、手紙、Eメールを受けるやいなや、宣教部門は会員とその管区長と共に、落ち着いた、真剣な、深い識別を開始します。それから、すべての事柄が総長に伝えられます。識別はしばしば候補者の適正に光を当てます。しかし、そうでない場合もあります。いずれにしても、各人と使命の善益だけを私たちは求めるのです。

会員の皆さん、これが私の呼びかけです。

会全体におけるこの意向のために祈るよう、皆さんを招きます。福音が告げられるのをまだ耳にしていない人は多いのです。多くの子ども、若者が、出会うサレジオ会員のうちに見いだすことのできる友、兄、父を必要としています。

キリスト者の助け聖マリアが皆さんの寛大さを祝福し、イエスのまことの宣教する弟子となる献身において、ドン・ボスコがひきつづき私たちと共に歩んでくれますように。

親しさを込めて。

Angel Fernandez A., SDB

総長
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

福者ラウラ・ビクーニャ (1891 - 1904) は、母の回心のために若い命をささげました。初聖体のときの決心の中に、次のように書いています。「主よ、あなたが人類から、特に私の家族の中の人たちから毎日受ける痛手を償うため[…]できるだけのことをしたいと思います；私の神よ、生涯をかけて愛し、自分を捨て、犠牲をささげさせてください。」



サレジオ会の宣教の意向

すべてのサレジオ会員のために

サレジオ会員がいつでもどこでも、教会の人、一致の人であるように。

教会の完全な交わりは、キリストご自身が遺言として私たちに残されたものです：「父よ、すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17・21)。キリストのみ心のこの熱い望みを実現させる第一歩は、キリストがそうされたように祈ることです。祈りに続くのは、兄弟愛です。それは教皇フランシスコが示すように、同心円のように、神を信じるすべての人、すべての神の子どもたちへと差し伸べられる兄弟愛です。132か国で働いているということ自体、エキュメニズムの分野における大きな教会的責任を意味します：ドン・ボスコの子どもらは、まず生き方の模範によって、預言者、教師となるように呼ばれています。

